

## セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度 ・ 武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体になって進める学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
  - ・ 武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度 ・ セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度 ・ 武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度 ・ “夏季山村生活体験学習”(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏休み期間中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
  - ・ 武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度 ・ 対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による“山村生活体験教室”(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏休み期間中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
  - ・ 対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度 ・ 市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
  - ・ 小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度 ・ 小学校全13校が学期期間中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
  - ・ 中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度 ・ 小中学校全18校が学期期間中に実施。
  - ・ 「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。

- 平成9年度 ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。
- 平成10年度 ・各学校が、平成14年度から創設される『総合的な学習の時間』を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。
- 平成14年度 ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。
- 平成15年度 ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール\*を4校にて試行。  
 \*プレセカンドスクール・・・セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。  
 ・武蔵野市のセカンドスクールが、第1回オーライ！ニッポン大賞に選定される。
- 平成16年度 ・プレセカンドスクールを10校にて試行。  
 ・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度 ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。  
 ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度 ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度 ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。  
 ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- 平成21年度 ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小）、プレセカンドスクール（境南小）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。  
 ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。